

mg/kg) 宛を妊娠海狸に注射し、48時間後屠殺し、各臓器の病變を病理組織學的に検索したところ、妊娠中毒症胎盤に多くみられた蛋白群にのみ著明な妊娠中毒症様病變の發現を認め、他の群の蛋白には全く軽度の病變を認むるという興味ある所見をえた。なおこの病變が同群蛋白そのものによるものか、蛋白に結合する他の物質によるものかについては、目下検討中である。

26. 人胎盤絨毛系上皮細胞移植に関する研究

(徳島大)

*飯田無二, 近藤勝昂, 山田マツノ

早期人胎盤(妊娠2カ月のもの)を家兎の腎, 卵巣, 子宮に移植を試みたのでその一端を報告する。

成熟家兎の上記臓器に早期人胎盤組織を移植し同時にトロホプラストホルモン注射を施行した。

特に移植後15日目の腎において絨毛組織の中心部は壊死に陥っているが周縁部にはラングハンス細胞残存し, さらにその周縁に同細胞が集り間質に迄及ぶ。しかしその配列は相當亂れている。その周囲組織は萎縮状である。

現在迄のところ, 移植組織は一應癒合しているが, 移植絨毛細胞及びその周囲組織が如何に變化していくかなお今後観察したい。

(スライド使用説明する)

27. 胎生, 新産初期における性器發達の形態的研究

(日醫大第二)

永田登喜雄, 岩倉益雄, *神保 功, 寺坂亮利

余らは胎生期より新産初期にわたつて女性性器の發達の模様を組織的に形態的に検索して, あるものは象形複成模型標本を作成して研究を進めている。また動物實驗によつて母獸の内分泌臓器を剔出して, これが胎兒に及ぼす影響についても研究を進めてきた。今回は特に人胎兒の卵管について述べる。

人胎兒卵管は胎生後半期において特に蛇行屈曲著しく, 横斷切片標本においても斷面が3個以上に及ぶこともある。肉眼的にその詳細を知ることは困難であるから余らは妊娠6カ月胎兒, 7カ月, 8カ月, 9カ月及び新産兒各1例, 合計5例の卵管につき連続切片標本を作成して, 更に象形複成模型を作り, その各々の所見を検討して屈曲状態及び粘膜襞の状態を立體的に觀察した。

1. 全般的に屈曲數には著しい差異を認めないが, 立體的には9カ月の例が最も著しい急角度の屈曲状態を示す。

2. 峽部の屈曲は6, 7カ月では弧状または波状を呈して最も屈曲に富むが, 8, 9カ月ではその數も減少して緩やかとなり新産兒では殆んど直線状を示す。

3. 移行部及び膨大部の屈曲は8, 9カ月の例が最も複雑を極め, 螺旋状を示す部分を夫々2カ所に認める。

4. 管腔の廣さは月齡による規則的增加を示さず, 峽部では8, 9カ月の例が最も廣い。膨大部では8カ月の例が最大で9カ月, 新産兒これにつぐ。しかし峽部と膨大部との廣さの比率は大體において逐月的増加を示す。

5. 卵管粘膜襞は相對する大なる4主襞及びその他の小襞より成り, いずれも縦走する。特に4主襞は卵管綫あるいは卵管腹口部より發し, 峽部またはその近くまで連続縦走するが, 6カ月の例では相對する最大の2本のみ連続追究可能である。

6. 4主襞は7カ月以上では明瞭に他の小襞と區別出来るが, 6カ月の例では相對する2本のみ明瞭で夫々の中間にある他の2本は極めて發育悪く小襞との區別も困難である。

7. 襞の發育は膨大部が最も著明で月齡の増加と共に著しい。4主襞は8カ月以上では明らかに第3次まで分岐するが, 7カ月の例では最大なる1本のみが痕跡的に第3次まで分岐し, 他はすべて2次までにとどまる。6カ月の例では相對する最大の2本のみが2次までで, 他の2本は1次にとどまる。

8. 小襞の中でも發育著しいものは9カ月以上では第3次まで分岐するものもあるが, 8カ月ではいずれも2次分岐以下, 7, 6カ月ではすべて1次にとどまる。

9. 小襞の數は膨大部に最も多く, 逐的に増加する。

28. 生活環境の變化に伴う胎兒の生理

(北大) *小川玄一, 小國親久, 宮下舜一,

工藤 要, 稲垣 豊, 保原孝祀,

武上哲人, 菊池女男

われわれは, かねてから胎兒の生理に關して種々検索を續けてきたが, 今回はその一端として胎兒生活環境の變化に伴う生理現象に焦點を置いて検討した。

胎兒がいわゆる子宮内生活という特殊条件下に來たるべき母體外生活への準備を進めていることは, 今更いうまでもないが, われわれは人羊水について凡ゆる方面から検索を行うとともに, 胎兒生活環境をめぐる胎兒生理現象を, 主として電氣生理學的分野から追究し, 現在までの結果①從來, 非生理的とみなされていた假羊水は, 單なる偶發的貯溜液でなく妊娠前期に生理的に恒存する